

I はじめに

情報技術を中心とした技術革新は、産業界のあらゆる分野に及んでおり、各職場においてOA化が急速に進められた。しかし、高齢者（55才～65才）の場合、一般的に新しい技術への適応力が弱く、とりわけパーソナルコンピュータ関連の知識・技能の学習は、学生時代において履修していない者が多くコンピュータに慣れることは容易でないことが多い。このため、平成5年度から平成9年度の5か年にわたって、高齢者の身体的、心理的特性及び個々の性格を配慮した効果的なパソコンによる事務関係の「訓練システム」を開発し、職業能力開発施設におけるOA関連職種の職業能力開発の効果的实施等に活用することにより高齢ホワイトカラー労働者の職域拡大を図ることとなった。

この「訓練システム」の概要は高齢ホワイトカラーの訓練特性・パソコン学習特性の調査分析結果に基づいて高齢者用キーボードの開発を行い、コンピュータ基礎技能（読み書き計算技能）訓練コースのための訓練支援用ソフトウェア、自学自習用CAI教材の開発をすすめ、これらを効果的に活用するために高齢ホワイトカラー個々人の訓練特性の診断、さらに個々人に対する最適訓練プログラムの開発をし、さらにこの基礎技能訓練コースの修了者に対して、OA関連職種の高齢者向け実務訓練コースとして財務会計・税務管理等の教材（CAI教材・ソフトウェア等）の開発を計画している。

初年度として、どのように「訓練システム」を開発するかを討議した結果、職業能力開発大学校プロジェクト研究として実施し、プロジェクト名を「高齢ホワイトカラー用コンピュータ訓練システムの開発」として実施することとなった。プロジェクトをすすめて行くにあたり、開発企画委員会を設置して、このプロジェクトの総括をこの委員会で行うこととした。具体的にはプロジェクトの研究方針、プロジェクトの5カ年計画、実作業を担当する調査開発作業部会の設置・運営に関することなどを討議することとなった。この開発企画委員会の討議により、調査開発作業部会を設置し、初年度の「訓練システム」を開発することとなった。

調査開発作業部会として調査部会、入力・表示装置開発部会（以下、「入力部会」という。）、訓練支援ソフト開発部会（以下、「ソフト部会」という。）、CAI開発部会（以下、「CAI部会」という。）の4部会を設置することとなった。平成5年度においては、調査部会では、職業能力開発施設等での高齢者の特性等のアンケート調査、聞き取り調査等を、入力部会では高齢者用入力・表示の設計開発を、ソフト部会では高齢者用の文書作成用ソフト、表計算ソフトの開発を、CAI部会ではコンピュータ学習の基礎CAI、文書作成用CAI、表計算CAIの開発を行うこととなった。

本報告書はこのプロジェクトの一環として開発したマスクキーボードを開発するに至った経緯をとりまとめその成果物を紹介するものである。今後、「訓練システム」の試行を行い、更に改良を加えて良いものにしていきたいと考えている。